

学びのR

No. 3 4 (令和2年12月)
 埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform（改革）」の頭文字です

*** 「指導と評価の一体化」で授業改善⑧ *** ~ 「国語科」編 ~

* 今回は、「指導と評価の一体化」の視点から、単元の構成方法、言語活動の設定、評価のあり方について紹介します。

埼玉県マスコット「コバトン」

国語科における単元構成のポイント

P. 2 2

※文中のP.〇〇は、「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料」の引用ページを表しています。



Step 1

単元で取り上げる
指導事項の確認

- 指導事項を確認する。
- 前後の学年の指導事項を確認し、系統的な指導ができるようにする。

まずは、指導する指導事項を年間指導計画等で確認することが大切です。

Step 2

単元の目標と
言語活動の設定

- 単元の目標を設定する。
- 単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例等を参考にして位置付ける。

適切な言語活動を設定することによって、指導事項が指導できます。



Step 3

単元の評価規準の
設定

- 単元の評価規準を作成する。
単元の評価規準の作成方法は、このページ下部の「評価規準作成例」を参照。

Step 4

単元の指導と評価
の計画の決定

- 各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。
- 評価場面を精選する。

Step 5

評価の実際と
手立ての想定

- それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況（B）の例、「努力を要する」状況（C）への手立てを想定する。

- ①粘り強さ ②自らの学習の調整
- ③他の2観点において重点とする内容
- ④当該単元の具体的な言語活動

評価規準作成例

指導事項のうち、
評価しない部分
は削除。
領域名を入れる。

P. 2 0	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・身近なことを表す語句の量を増やし、 <u>話や文章</u> の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かに <u>している</u> 。（〔知識及び技能〕(1)オ）	・「 <u>話すこと・聞くこと</u> 」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を <u>考えている</u> 。（〔思考力・判断力・表現力〕(1)イ）	・① <u>進んで</u> 、③相手に伝わるように <u>話す事柄の順序</u> を考え、② <u>学習の見通し</u> をもって、④ <u>紹介しよう</u> としている。

「～している。」と
する。

特に重要な点は、③と④です。③は特に粘り強さを発揮してほしい内容、④は、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を設定します。

※実際の単元構想例は裏面です。



- 1 単元名・教材名 しつもんしあって、くわしく考えよう「あったらいいな、こんなもの」
- 2 児童の実態と本単元の意図 <省略>
- 3 単元の目標

(1) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。<知識及び技能>(1)キ

(2) 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。<思考力、判断力、表現力等>A(1)ア

(3) 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。<思考力、判断力、表現力等>A(1)ウ

(4) **言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。**<学びに向かう力、人間性等>
- 4 **本単元における言語活動**

あったらいいなと思うものを考え、説明する。(関連：言語活動例ア)
- 5 単元の評価規準 <省略> **作り方は表面参考**
- 6 指導と評価の計画 (全8時間扱い)

単元の目標は、**指導事項をそのまま**使います。
文末は「～できる」にします。

「学びに向かう力、人間性等」の目標は、**学年の目標をそのまま**使います



時	主な学習活動	学習内容	評価
1	○言語活動について知り、あったらいいなと思う道具の絵を描きながら、名前を考える。	○話題の決め方 評価場面は 精選 します。	本時では児童の評価は行わないが、授業改善につなげる教師の評価は行う。
2	○あったらいいなと思う道具について伝えるために、必要な事柄と、その順序を考える。	○伝え合うために必要な事柄とその順序	【思考・判断・表現】 評価規準で設定した項目について、評価します。
3	○質問し合って、発表について詳しく考える。	○伝え合うために必要な事柄とその順序 など	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】
4・5・6	○発表原稿を書いたり、発表を聞き合ったりして、よりよい発表について考える。	○伝え合うために必要な事柄とその順序 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】
7・8	○複数のグループに分かれて発表会を行い、感想を伝え合う。 ○単元の学びを振り返り、今後への生かし方を考える。	○相手に応じた声の大きさや速さ ○発表に対する感想の伝え方 ○振り返りの仕方	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】



「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、**言語活動の中で、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学びの調整をしようとする側面」**を評価します。

※下記の参考資料に、その他の領域の評価についての説明もあります。

引用 埼玉県小学校教育課程指導・評価資料 埼玉県教育委員会 から引用して作成
※引用した部分は、ページ数を示してあります。(例 p.〇〇)
参考 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
小学校 国語 国立教育政策研究所

「学びのR」
はこちらからも
御覧いただけます!

